

第2回中原区区民会議運営部会会議録

1 開催日時 平成24年12月27日(木) 午前10時～午前11時40分

2 開催場所 中原区役所5階505会議室

3 出席者

委員 川連部会長、富岡副部会長、板倉委員、稲富委員、反町委員、成田委員、藤嶋委員
事務局 小野副区長、川添企画課長、園田担当係長、倉見担当係長、橋本職員、深谷職員、
野並職員
石塚計画デザイン事務所 牟禮さん

4 議題

(1) 会議録確認委員の選任(公開)

(2) 第3回中原区区民会議の運営について

ア 課題調査部会の審議結果について(公開)

イ 2つ目の審議テーマについて(公開)

(3) 第4期中原区区民会議の開催スケジュールについて(公開)

5 傍聴者 なし

6 会議内容

(1) 会議録確認委員の選任

稲富委員を選任した。

(2) ア 課題調査部会の審議結果について

板倉委員 資料1-1、資料1-2、資料2及び資料3に基づき、第1回及び第2回課題調査部会の審議内容について説明。

川連部会長 区民会議として、やれることを考えていくことが大切だと思う。第3期で取り組んだ防災紙芝居について、反町委員どうでしょうか。

反町委員 取組事項の案はどれも良い内容である。ただし、どれを実施するにも時間、金、エネルギーが必要となるので、優先順位を考えていく必要がある。防災紙芝居に関しては、前期からの継続なので、それほど労力を掛けずに実施できる。

成田委員 先日の子ども未来フェスタで防災紙芝居を実施した。また、各子育てサロンでも実施したことがある。来年度の計画をそろそろ立てる時期なので、来年度にも実施できるよう事務局に聞いてみる。

藤嶋委員 取組案が第3期とあまり変わっていないと感じる。もっと具体的にどこに災害弱者がいるかなどを確認し、各町会で避難訓練を実施する方がよいと思う。

川連部会長 中原区内はマンションが増えており、どこに災害弱者がいるかを把握することは容易ではない。民生委員でさえ、個人情報保護が壁となり、リスト化もできない。

富岡副部会長 私の町会ではなるべく足で稼いで状況を把握し、マップなどを作成しているが、個人情報の問題で動きづらいのが現実である。

宮前区の総合防災訓練では、今年、宿泊訓練を行った。こういう訓練も必要であろう。民生委員は災害時要援護者を把握しているので、こういう方を避難所へ連れ出す訓練も必要だろう。

藤嶋委員 学校で防災訓練をしても出てくる人はいつも同じである。

富岡副会長 少しずつ普及させていくという考え方で繰り返し行うことが大切である。

川連部会長 防災情報を集約するという取組案があるが良いと思う。私自身も色々なところから防災に関する資料をもらうが、多すぎるのではないかと感じている。

富岡副会長 情報コーナーを常設することも大切である。今は、区役所4階の危機管理担当まで足を運ばなければならず、面倒である。1階に常に設けておくことも必要である。

板倉委員 町会の活性化について、課題調査部会でも色々と意見があった。ただ、町会には自主防災組織があり、この組織が自主的に動くために何をするかを考えるのが区民会議であると思う。

稲富委員 住民はどこに不安を感じているかを考える必要がある。逆に言えば、どこが分かっているれば安心できるかを考える必要がある。自助・共助双方に課題はあるが、自助の強化には限界があると感じている。災害時にどういう流れで共助の仕組みが働くかを多くの人は知らないのではないか。

ただ、この仕組みを全員で共有することは不可能である。分かっている人だけが分かっている人が分かっている、発信できるようになっていけば、不安要素を払しょくできるのではないか。

区民会議には、各団体から委員が出ているので、団体同士のつなぎ方を考えて、取り組むことができるのではないかと思う。大型マンションの住民であっても、復旧期には地域とのつながりが必要になってくる。そういう時に備えて、マンション住民と周辺の町会が日頃からつながっておくことが必要である。また、企業に関しては、周辺町会と助け合いながら、避難者の受け入れなども考えられる。

富岡副会長 東日本大震災の発災時は、行政の指示の下、マンション住民と周辺町会が協力していたので、そうしたパイプを太くする必要があるであろう。

稲富委員 行政の仲介が無くても、住民が自主的に助け合えるようになるのが理想である。区民会議委員の所属団体同士を結び付けるだけでも変わってくるのではないだろうか。

富岡副会長 色々な団体の人で交流会を持ってみてはどうだろうか。それだけでもつながりは生まれる。

板倉委員 総合防災訓練の前にイベントを行う案を出しているが、そういう交流会をこのイベントに盛り込むことはできる。

稲富委員 紙芝居の紹介もやればよいのでは。

川連部会長 中学生は学校で災害図上訓練（DIG）を行っている。そうした経験も生かしていきたい。

成田委員 今の若い世代はツイッターなども活用して情報を豊富に持っている。避難訓練の情報などをツイッターなどで発信することで、若い世代の関心も集まるかもしれない。若い世代が活用しているツールを知った上で考えていくことも必要である。

富岡副会長 中学生は本当によく勉強している。DIGを見に行くと、こちらが圧倒されてしまう程である。機会があれば、皆さんもDIGを見に行ってみると良いと思う。

防災訓練もマニュアルがあるともっとやりやすくなると思う。

板倉委員 本日の意見を聞くと、案を出しているイベントの取組内容や回数を見直す方向でよいか。

川連部会長 複数回となると難しいので、とりあえず1回やってみるのがよいのではないかと。次回区民会議で他の委員の意見も聞けば良いであろう。

いずれにしても、本日の各委員の意見も踏まえて、次回区民会議で取組事項を決定していきたいがよいか。

(一同了承)

イ 2つ目の審議テーマについて

事務局 資料4の説明

反町委員 私は2つ目のテーマは「子育て」が良いと思う。理由としては、中原区は子育て世代が多く、私の知人にも子育て中の方が多い。中原区の子育て支援は非常に充実していると感じているが、それでも、多くの方が居場所を求めている現状があるので、区民会議としてこの課題について考えていきたいと思っている。

稲富委員 私も反町委員と同様、中原区の現状を考えれば、2つ目のテーマは「子育て」が妥当であると思う。1つ目のテーマが子育てに関連する部分もあるので、流れとしても妥当である。

藤嶋委員 小杉駅周辺の開発について、取り上げることはできないのか。これだけ変化しているのだから区民会議として考えなければいけないのではないかと。

川連部会長 区民会議の審議テーマとして、「開発」を取り上げることはふさわしくないであろう。

成田委員 子どもが地域の大人と交流する機会が減ってきている。昔であれば、文房具店でお店の人と会話をしながら買っていたが、今は量販店で買ってしまう。子育て支援というと、乳幼児とその保護者に目が行ってしまうが、そういう視点で学齢期の子どもと商店街をつなぐ、そのために大人と商店街をつなぐための取組も考えていきたいと思う。また、親子関係が良好に築けていない、本当に子育てに困っている親子を何とかできないかとも考えてしまう。

富岡副会長 最近、区内の子どもの人口が増えるにつれて、いじめや虐待の件数も増えてきている。乳幼児も必要だが、学齢期の子育て支援も必要である。

板倉委員 小杉駅周辺の開発については、確かに問題であるがこれを議論するためには、我々も勉強する必要がある。「子育て」であれば、日頃からの知識を皆さん持っているので、すぐに取り組めるのではないかと。

川連部会長 委員皆さんからは「子育て支援」がふさわしいという意見があった。運営部会としては、「子育て支援」を2つ目の審議テーマの候補として、よいか。

(一同了承)

(3) 第4期中原区区民会議の開催スケジュールについて

事務局から資料6に基づき、第4期中原区区民会議スケジュール案について説明。了承される。

(4) その他

事務局から資料7に基づき、中原区町内会連絡協議会推薦委員が石井康昭委員に変更になったことを報告した。また、資料8に基づき、なかはら区民会議だより第17号を1月1日付で発行することを報告した。

以上